

使徒聖ユダの書簡

冒頭

第一章 イエズス、キリストの僕にしてヤコボの兄弟なるユダ、父にて在す神に愛せられ、キリスト、イエズスの為に保たれ、且召され奉りたる人々に「書簡を贈る」。二願はくは慈悲と平安と慈愛と汝等に加はらん事を。三至愛なる者よ、我は我等が共同の救霊に就きて汝等に書贈らんことを切に望み、一度聖人等によりて傳へられし信仰の為に力を盡して戦はんことを勧めんとて、汝等に書贈るを必要とせり。四其は或人々、即ち昔より罪に處せる様預定せられたる不敬虔なる人々の潜入りて、我神の恩寵を放蕩に易へ、唯一の主宰者にして我主にて在せるイエズス、キリストを否み奉ればなり。

本文

五汝等素より何事をも知れりと雖も、爰に我汝等をして思出さしめんとする事あり。即ち主エジプトの地より民を救出し給ひて後、信ぜざりし人々を亡びし給ひ、六又己が位を保たず己が居處を棄てたりし天使等を、大いなる日の審判の為に、無窮の縲綵を以て暗黒の中に閉ぢ給ひ、七又ソドマ、ゴモラ及び其付近

の市町は、同じく淫亂に耽り、異なる肉身を冒したるが故に、永遠の火の刑罰を受けて見せしめと為られしなり。八斯の如く彼夢想者等も亦肉身を汚し、権力を軽んじ、尊榮を罵る。九大天使ミカエルは、悪魔と論じてモイゼの屍を争ひし時に、敢て罵るが如き宣告を為さずして、願はくは主汝に命じ給はん事を、と言へり。一〇然れども是等の人は総て知らざる事を罵り、無知の畜類の如く自然に知れる事を以て其身を汚すなり。一一彼等は禍なる哉、其はカインの道に行き、又報酬の為にバラアムの迷に流れ、尚コオレの謀反の中に亡びたればなり。一二彼等は憚らずして食し、己を飽足らしめて、汝等の愛餐に於て汚と成り、風に吹遣らるる水なき雲、實らずして再び枯れ、根の抜かれたる秋の末の樹、一三己が醜行を泡立たする海の暴波、暗黒が彼等の為に限なく備はれる惑星なり。一四アダムより七代目なるヘノクは、是等の人をも斥して預言して言へらく、「看よ主は其千萬の聖徒を従へて來り給ひ、一五萬民に對ひて審判を為し、凡ての不敬虔なる者を、其不敬虔に行ひし不敬虔の業と、不敬虔なる罪人が神に對ひ奉りて語りし凡ての暴言とを以て責め給ふべし」と。一六彼等は私慾に従ひて歩み、不満を鳴らして嘯く者、其口は大言を語り、利益の為に人に詭ふ者なり。一七至愛なる者よ、汝等是我主イエズス、キリストの使徒等より預言せられし事を記憶せよ。一八即ち彼等謂へらく、末の時には嘲る人々來り、己が望に従ひて不敬虔の業の中に歩まん、と。一九彼等は自

ら分裂して肉慾に従ひ、靈を有せざる者なり。二〇 至愛なる者よ、汝等が至聖なる信仰の上に己を建て、聖靈によりて祈り、一己を神の愛の中に守り、永遠の生命を得ん為に、我主イエズス、キリストの御慈悲を待て。三 汝等彼等の中の或者、即ち眞偽を争へる人々を承服せしめ、三 或者を火より取出して救ひ、或者を懼れつつ憫み、肉に汚されたる肌着をも厭ふべし。

結末

二四 克く汝等を守りて躓かざらしむる事と、(我主イエズス、キリストの降臨の時に) 其光榮の御前に汚なく喜ばしく立たしむる事を得給ふもの、二五 即ち我主イエズス、キリストによりて、我救主にて在す唯一の神に、萬世の以前に於ても、今に於ても、又萬世に至る迄も、光榮、威光、能力、權能歸す、アメン。